

オンライン診療に伴う緊急避妊薬の調剤について 薬局での対応について

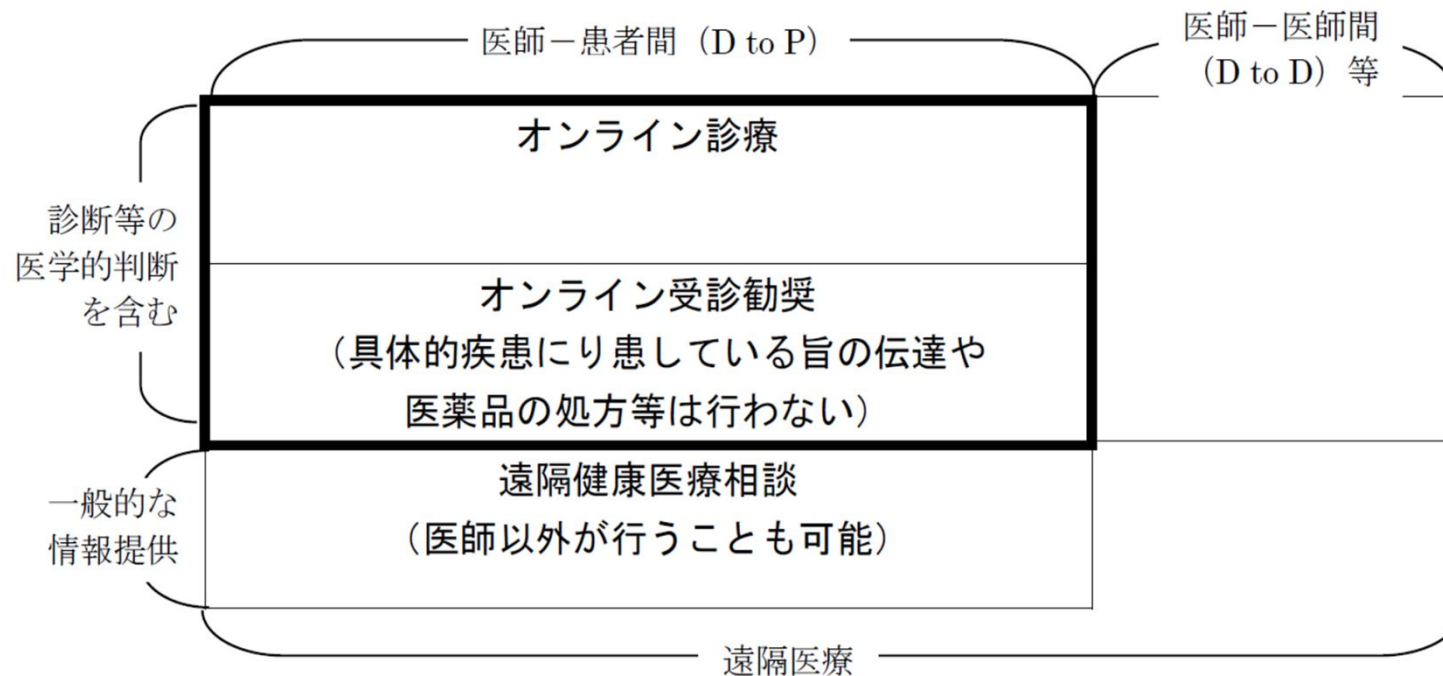
※本資料は現時点における内容であり、厚生労働省において調整中の内容が含まれていることにご留意ください。

オンライン診療とは

オンライン診療（定義）

遠隔医療のうち、医師－患者間において、情報通信機器を通して、患者の診察及び診断を行い診断結果の伝達や処方等の診療行為を、リアルタイムにより行う行為

図：遠隔医療、オンライン診療、オンライン受診勧奨、遠隔健康医療相談の関連



オンライン診療では、初診は直接の対面が原則

理由

- ・ 得られる情報が視覚及び聴覚に限られる中で、可能な限り、疾病の見落としや誤診を防ぐ必要がある
- ・ 医師が、患者から心身の状態に関する適切な情報を得るために、日頃より直接の対面診療を重ねるなど、医師－患者間で信頼関係を築いておく必要がある



「初診は直接の対面診療の原則」の例外

例外とされるもののうち、「以下の診療については、それぞれに記載する例外的な対応が許容され得る。」とされるもの

- ・ 禁煙外来
- ・ 緊急避妊薬

国内で承認を取得した緊急避妊薬

2020年1月末現在

販売名	ノルレボ錠1.5mg	レボノルゲストレル錠1.5mg 「F」
製造販売会社	あすか製薬株式会社	富士製薬工業株式会社
販売開始時期	2016年4月	2019年3月
写真		
区分	処方箋医薬品	
薬価	薬価基準未収載	

※薬価を決める規則はない。

緊急避妊に係る診療(オンライン診療の対象)

- 対面診療が原則。
 - 対面診療が可能な医療機関等に係る適切な情報を有さない女性に対し、女性の健康に関する相談窓口等（女性健康支援センター、婦人相談所、性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センターを含む。）において、対面診療が可能な医療機関のリスト等を用いて受診可能な医療機関を紹介することとし、その上で直接の対面診療を受診することとする。
- 地理的要因がある場合、性犯罪被害を含め女性の心理状態等に応じて対面診療が困難であると判断した場合は、産婦人科医又は厚生労働省が指定する研修を受講した医師が、初診からオンライン診療を行うことが可能となる。

(注)

- オンライン診療を行う医師は、対面診療を医療機関で行うことができないか、再度確認する。
- 性被害を受けた可能性がある場合は、十分に女性の心理面や社会的状況にかんがみながら、警察への相談を促すこと（18歳未満の女性が受けた可能性がある性被害が児童虐待に当たると思われる場合には児童相談所へ通告すること）、性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センター等を紹介すること等により、適切な支援につなげること。

緊急避妊に係る診療(オンライン診療での処方と調剤)

- オンライン診療を行う医師は1錠のみの院外処方を行う。
- 受診した女性は薬局において研修を受けた薬剤師による調剤を受け、薬剤師の面前で内服する。
- その際、医師と薬剤師はより確実な避妊法について適切に説明を行うこと。
- 加えて、内服した女性が避妊の成否等を確認できるよう、産婦人科医による直接の対面診療を約3週間後に受診することを確実に担保することが求められる。

(注)

- 厚生労働省は、初診からのオンライン診療による緊急避妊薬の処方に係る実態調査を適宜行う。
- また、研修を受講した医師及び薬剤師のリストを厚生労働省のホームページに掲載する。

厚生労働省のホームページで公表される情報

医療機関

緊急避妊に係る対面診療が可能な産婦人科等の医療機関

- ・ 施設名
- ・ 所在地
- ・ 電話番号
- ・ ウェブサイトURL
- ・ オンライン診療の可否
- ・ 産科、婦人科、産婦人科の標榜の有無
- ・ 対面診療への対応可能時間帯
- ・ 常時の緊急避妊薬の在庫の有無 など

(都道府県宛、令和元年9月13日付、医政地発0913第1号・医政医発0913第1号)

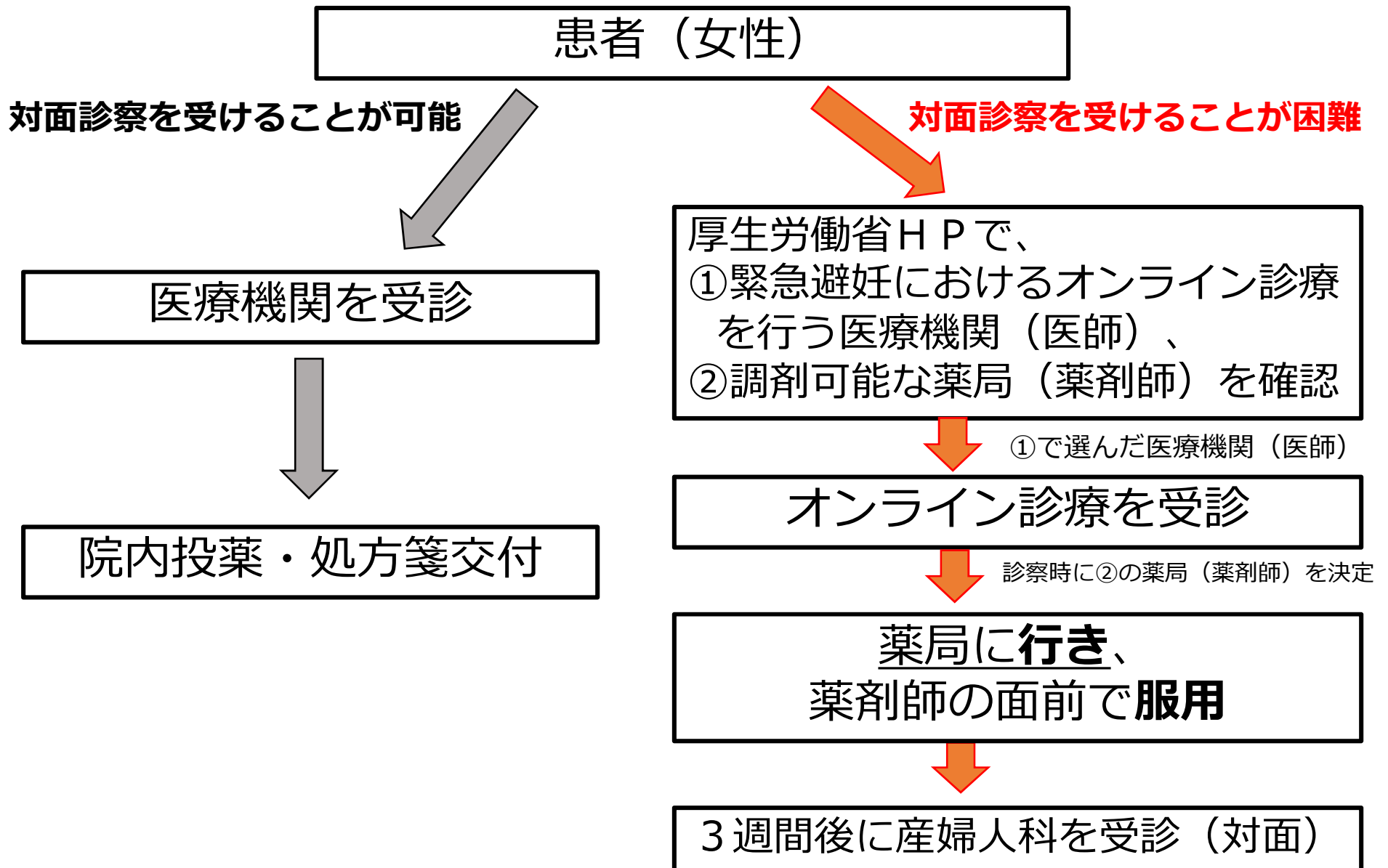
薬局

オンライン診療における緊急避妊薬の調剤が可能な薬局

- ・ 薬局名
- ・ 薬局所在地
- ・ 電話番号
- ・ FAX番号
- ・ 開局時間
- ・ 研修修了薬剤師の氏名
- ・ 研修修了薬剤師の性別 など

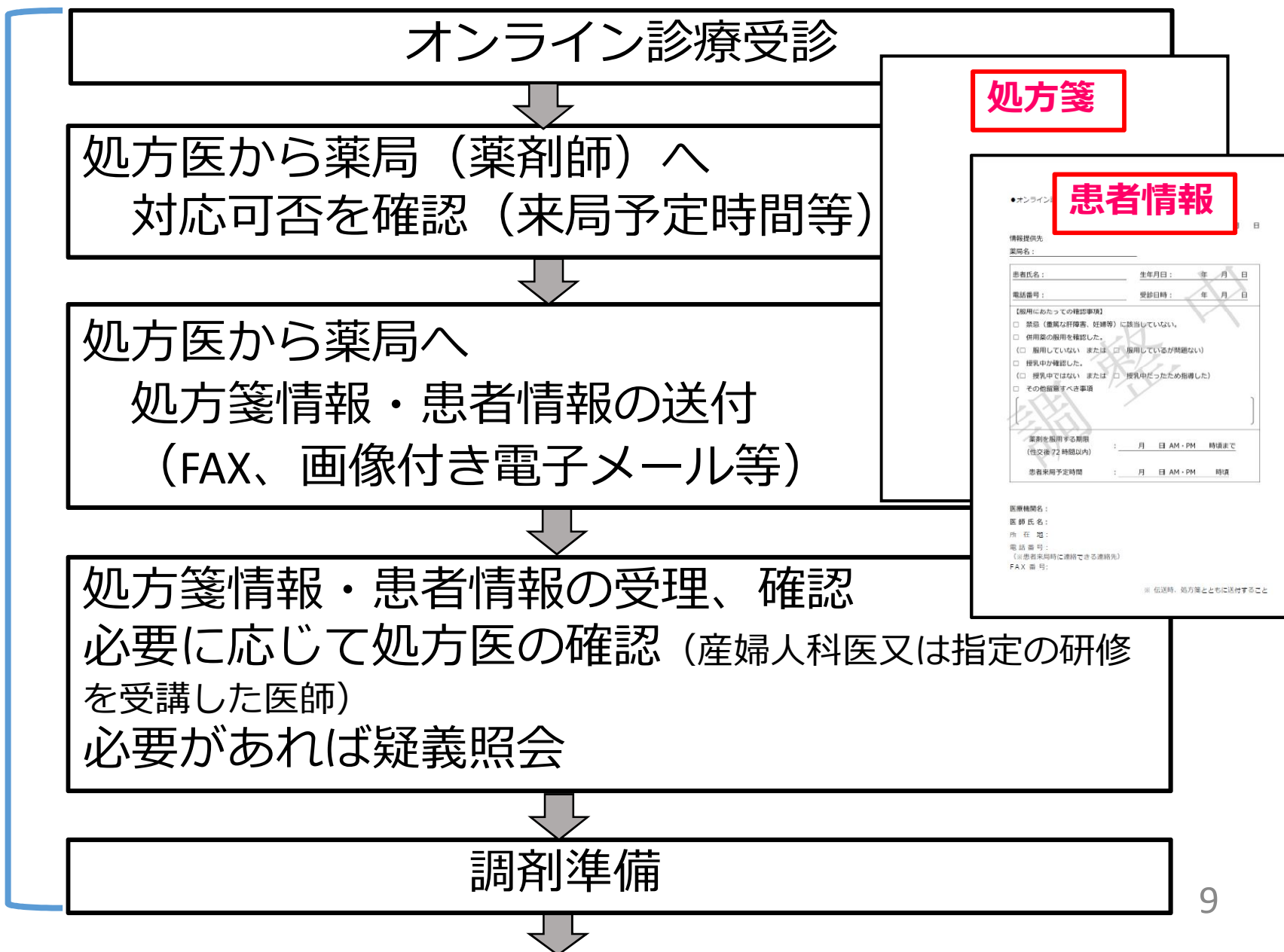
詳細は調整中

緊急避妊薬が交付されるまで



オンライン診療における緊急避妊薬の調剤の流れ

来局前



処方医⇒薬局

患者情報

- 患者の氏名、生年月日、連絡先
- オンライン受診日時
- 対応医師の氏名、連絡先
- 患者来局予定時間
- 薬剤を服用する期限
- 服用にあたっての確認事項
- その他留意すべき事項

など

●オンライン診療を実施した医療機関から薬局への情報提供（手順③）
緊急避妊薬に関する情報提供書（医師→薬局薬剤師）

年 月 日

情報提供先
薬局名： _____

患者氏名： _____	生年月日： _____年 月 日
電話番号： _____	受診日時： _____年 月 日

【服用にあたっての確認事項】

禁忌（重篤な肝障害、妊婦等）に該当していない。

併用薬の服用を確認した。
〈 服用していない または 服用しているが問題ない 〉

授乳中を確認した。
〈 授乳中ではない または 授乳中だったため指導した 〉

その他留意すべき事項

薬剤を服用する期限
(性交後72時間以内) : _____月 日 AM・PM 時頃まで

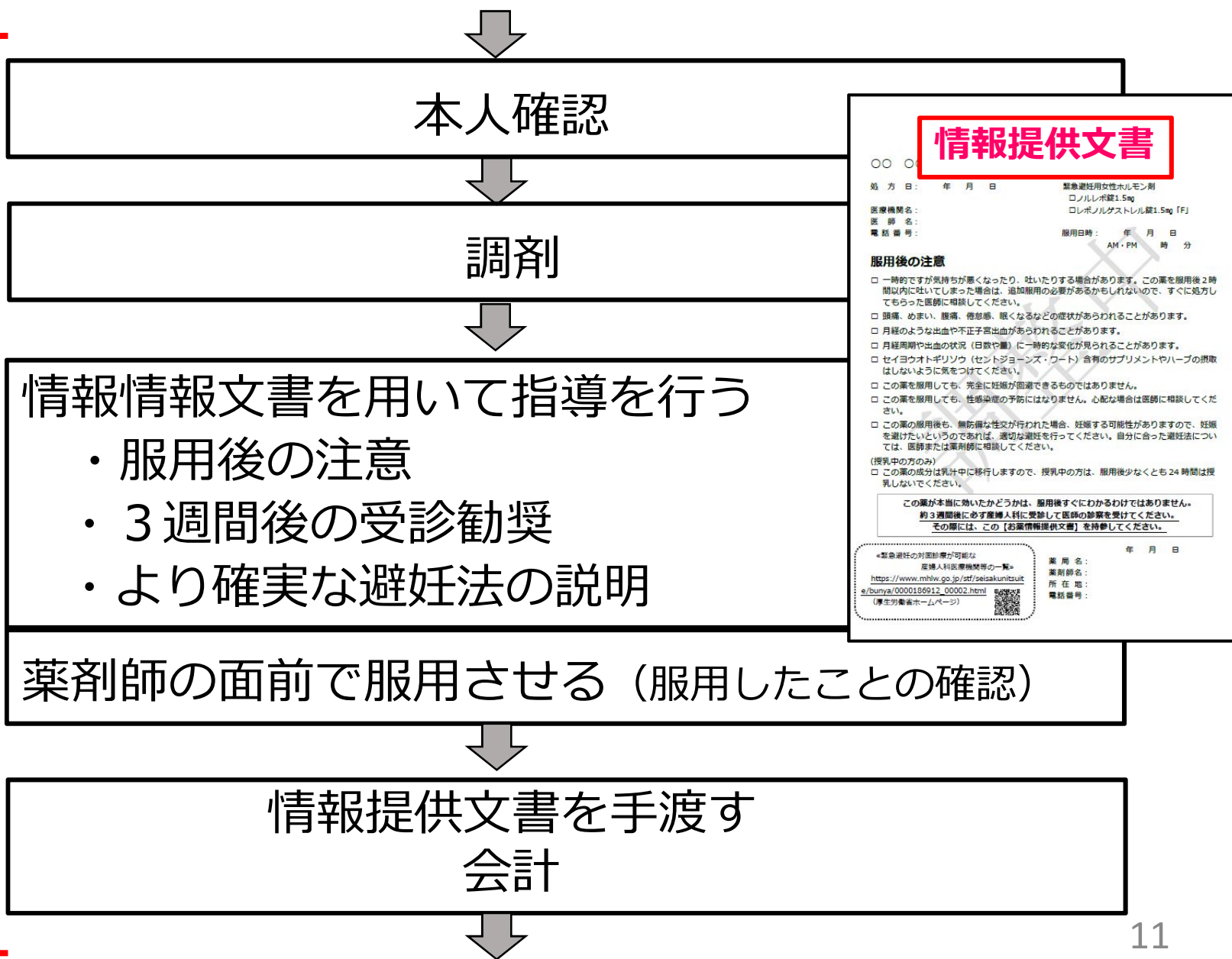
患者来局予定時間 : _____月 日 AM・PM 時頃

医療機関名：
医師氏名：
所在地：
電話番号：
(※患者来局時に連絡できる連絡先)
FAX番号：

※ 伝送時、処方箋とともに送付すること

オンライン診療における緊急避妊薬の調剤の流れ

来
局
中




薬局⇒患者

情報提供文書

- 服用後の注意
- 3週間後の受診勧奨
- より確実な避妊法に関して

など

お薬情報提供文書（オンライン診療）	
〇〇 〇〇様	
処方日： 年 月 日	緊急避妊用女性ホルモン剤 <input type="checkbox"/> ノルレボ錠1.5mg <input type="checkbox"/> レボノルゲストレル錠1.5mg「F」
医療機関名： 医師名： 電話番号：	服用日時： 年 月 日 AM・PM 時 分
服用後の注意	
<input type="checkbox"/> 一時的ですが気持ちが悪くなったり、吐いたりする場合があります。この薬を服用後2時間以内に吐いてしまった場合は、追加服用の必要があるかもしれないので、すぐに処方してもらった医師に相談してください。	
<input type="checkbox"/> 頭痛、めまい、腹痛、倦怠感、眠くなるなどの症状があらわれることがあります。	
<input type="checkbox"/> 月経のような出血や不正子宮出血があらわれることがあります。	
<input type="checkbox"/> 月経周期や出血の状況（日数や量）に一時的な変化が見られることがあります。	
<input type="checkbox"/> セイヨウオトギリソウ（セントジョーンズ・ワート）含有のサプリメントやハーブの摂取はしないように気をつけてください。	
<input type="checkbox"/> この薬を服用しても、完全に妊娠が回避できるものではありません。	
<input type="checkbox"/> この薬を服用しても、性感染症の予防にはなりません。心配な場合は医師に相談してください。	
<input type="checkbox"/> この薬の服用後も、無防備な性交が行われた場合、妊娠する可能性がありますので、妊娠を避けたいというのであれば、適切な避妊を行ってください。自分に合った避妊法については、医師または薬剤師に相談してください。	
(授乳中の方のみ)	
<input type="checkbox"/> この薬の成分は乳汁中に移行しますので、授乳中の方は、服用後少なくとも24時間は授乳しないでください。	
<p>この薬が本当に効いたかどうかは、服用後すぐにわかるわけではありません。 <u>約3週間後に必ず産婦人科に受診して医師の診察を受けてください。</u> その際には、この【お薬情報提供文書】を持参してください。</p>	
年 月 日	
薬局名： 薬剤師名： 所在地： 電話番号：	
◀緊急避妊の対面診療が可能な 産婦人科医療機関等の一覧▶ https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000186912_00002.html (厚生労働省ホームページ)	

オンライン診療における緊急避妊薬の調剤の流れ

来局後

処方医へ服薬情報提供書を用いて
情報提供（服用した時間等）

服薬情報提供書

年 月 日

情報提供先

医療機関名： _____

医師名： _____

様

患者氏名： _____

生年月日： _____

年

月

日

【報告事項】

服用日時： _____ 年 月 日 AM・PM 時 分

より確実な避妊法について適切に説明した。

約3週間後に産婦人科医による直接の対面診療を受診することを説明した。

その他

[_____]

薬 局 名： _____

薬剤師氏名： _____

所 在 地： _____

電 話 番 号： _____

FAX 番 号： _____

処方箋原本の受理、確認
調剤録の作成

求めに応じて3週間後の対面診療の産婦人科医に
服薬情報の提供

薬局⇒処方医

服薬指導情報

- 患者の氏名、生年月日
- 服用日時
- 対応薬剤師の氏名、連絡先
- 適切な避妊法を説明した旨
- 3週間後の受診勧奨をした旨
- その他留意すべき事項

など

●薬局からオンライン診療を実施した医療機関への情報提供（手順⑥）
緊急避妊薬に関する服薬情報提供書（薬局薬剤師－医師）

年 月 日

情報提供先
医療機関名： _____ 医師名： _____ 様

患者氏名： _____ 生年月日： _____ 年 月 日

【報告事項】

服用日時： _____ 年 月 日 AM・PM 時 分

より確実な避妊法について適切に説明した。

約3週間後に産婦人科医による直接の対面診療を受診することを説明した。

その他

[_____]

薬局名： _____
薬剤師氏名： _____
所在地： _____
電話番号： _____
FAX番号： _____

オンライン診療における緊急避妊薬の調剤手順

●薬局における対応（手順⑤～⑧関連）

緊急避妊薬の調剤における薬剤師の対応手順

<input type="checkbox"/> ④処方箋及び情報提供文書の内容を確認する。 必要に応じて、処方医が研修を修了しているか確認する。
<input type="checkbox"/> ①オンライン診療を受診した本人であることを確認する。
<input type="checkbox"/> ②来局者の心理状態等に心を寄せて対応する。
<input type="checkbox"/> ③プライバシー空間の確保を心がける。 (場所（個室・パーティションの利用）、声の大きさ・トーンなど)
<input type="checkbox"/> ④調剤済みの薬剤と飲料水・紙コップなどを用意する。
<input type="checkbox"/> ⑤来局者に副作用などを説明する。
<input type="checkbox"/> ⑥来局者が服用したことを確認する。
<input type="checkbox"/> ⑦医師に薬局における対応内容について報告する。
<input type="checkbox"/> ⑧本手順書をチェックした上で、他の患者情報とともに保存する。

<⑤における説明内容>

<input type="checkbox"/> 服用後に嘔吐など副作用が起きた場合の対応を伝える。
<input type="checkbox"/> 約3週間後に産婦人科医による直接の対面診療を受診することを説明する。
<input type="checkbox"/> 確実な避妊法について説明する。
<input type="checkbox"/> 何か質問があるかを聞き、適切に答える。

こんな時、どうする？

ケース1

本人確認ができない場合

ケース2

本人以外（親族・パートナーなど）が来局した場合

ケース3

患者が面前で服用できないと申し出た場合

いずれのケースも、調剤不可

指針において「薬剤師の面前で内服すること」とされている。

ケース4

来局予定時間になっても本人が来局しない場合

必要があれば、患者又は処方医に問い合わせる。

処方医から薬局に送付する患者情報には、患者の連絡先が記載されている。

ケース5

患者がオンライン診療を受けずに 直接、薬局に来てしまった場合

調剤不可。相談に応じ、適切な情報提供を行う。

(例) 緊急避妊の診療が可能な医療機関、ワンストップ支援センター等の機関を伝える、又は、探す方法を伝える等。

ケース6

処方箋に緊急避妊薬以外の薬剤と一緒に記載されている。

そのままでは調剤不可。処方医に照会し、緊急避妊薬のみの処方としてもらう。

指針において「オンライン診療を行う医師は1錠のみの院外処方を行うこと」とされている。

ケース7

研修修了薬剤師が不在の場合

調剤不可。

指針において「研修を受けた薬剤師による調剤を受けること」とされている。

ケース8

患者への請求額は？

薬局において予め請求額を設定しておく。

緊急避妊薬の調剤は保険適応外であるため、患者が全額を自己負担する。

確実な調剤

- 緊急避妊薬は女性にとってメリットが多く、医師が処方
を敬遠しなくてもよい薬剤の1つ
- オンライン診療で緊急避妊薬の処方を受けた患者が時間
内に確実に服用できる環境が必要
 - 薬局の応需体制に委ねられている
 - 「地域に医薬品を過不足なく供給する」という薬剤師・薬局の使
命を果たす
 - 地域における薬局間連携も必要である
- オンライン診療の指針に沿って、確実な調剤を行う。
 - 調剤に際しては、手順書に沿って、本人確認、服薬確認、服薬指
導、避妊法の情報提供、3週間後の産婦人科受診の伝達を責任を
持って遂行する。

質の高い対応

- 店舗の環境を整える
 - オンライン診療で緊急避妊薬を処方された患者が、処方箋を持たなくても、入りやすく、声をかけやすい雰囲気を作る。
 - 医療機関に行きにくい心理状態の方も来局する（薬局ではじめて医療者と直接対面する）ことを念頭に置いて対応する。
- 来局者に適切に対応する
 - 患者が受診せずに来局したとき。相談されたとき。
 - 緊急避妊薬の取扱いの有無にかかわらず、迅速に、適切に対応する。

緊急避妊薬の処方箋を確実に調剤できる体制整備

緊急避妊薬を必要とする患者が不安なく薬局を利用できる体制整備

オンライン診療に伴う緊急避妊薬の調剤について

患者対応等について

令和2年X月X日（X）

薬局での患者対応①

薬剤師*が行うこと

- ① 患者がオンライン診療を受診した本人であることを確認する
- ② 患者の心理状態や社会状況に心を寄せる
- ③ プライバシー空間の確保や話しやすい環境に心がける
 - ・ 対応場所（個室・パーテーションの利用）の配慮
 - ・ 声の大きさやトーンの配慮
 - ・ 飲料水・紙コップなどを用意
- ④ 服薬指導を行い、服用後の注意事項を伝える
- ⑤ レボノルゲストレル製剤（1錠）を面前で服用させる
- ⑥ より確実な避妊法について説明する
- ⑦ 約3週間後に必ず産婦人科医の対面診療を受診するように伝える
- ⑧ 何か質問があるかを聞き、適切に答える
- ⑨ 「お薬情報提供文書」に必要事項を記入して患者に渡す

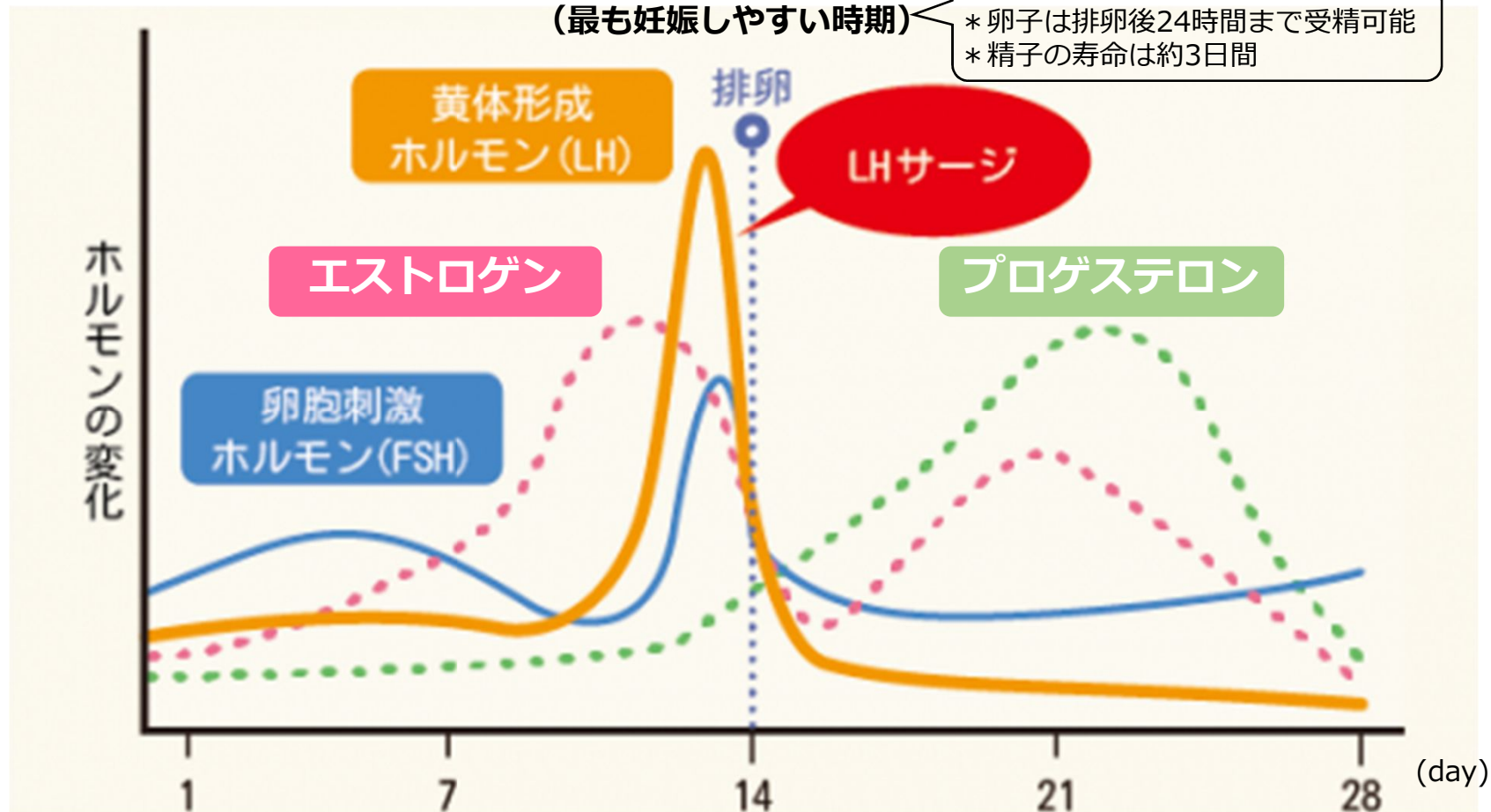
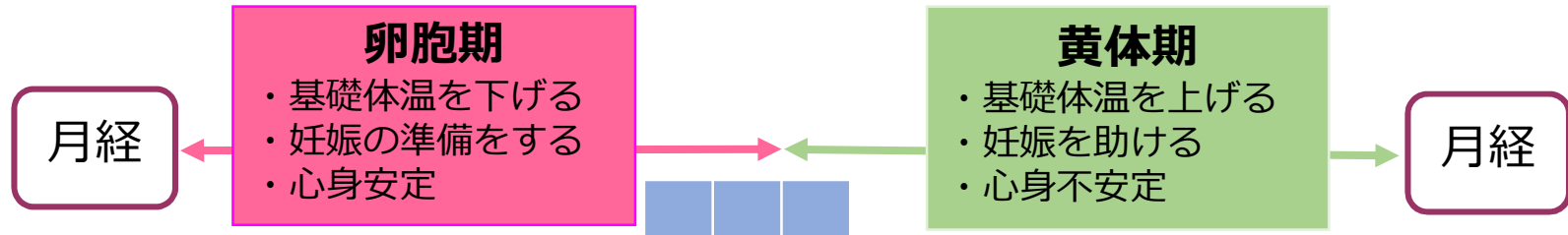
(*研修修了者)

薬局での患者対応②

薬剤師に必要な基礎知識（1）

- ① 女性ホルモンの変化と働き
- ② 卵子、精子の寿命
- ③ 最も妊娠しやすい時期

女性ホルモンの変化



薬局での患者対応②

薬剤師に必要な基礎知識（2）

- ① 緊急避妊薬の慣用的な呼び名
- ② 緊急避妊薬の有効成分と製剤
- ③ 緊急避妊薬の薬理作用
- ④ 緊急避妊薬の臨床効果（妊娠阻止率）
- ⑤ 薬剤師の面前で服用させる理由
- ⑥ 緊急避妊薬の副作用
- ⑦ 緊急避妊薬を服用後に嘔吐した場合の対応
- ⑧ 緊急避妊薬の禁忌
- ⑨ 緊急避妊薬の薬物・食品間相互作用
- ⑩ 授乳婦への注意
- ⑪ 約3週間後に産婦人科医師による対面診療が必要な理由
- ⑫ より確実な避妊法

参考資料・参考文献

- ノルレボ®錠1.5mg添付文書
- ノルレボ®錠1.5mg医薬品インタビューフォーム
- レボノルゲストレル錠1.5mg「F」添付文書
- レボノルゲストレル錠1.5mg「F」医薬品インタビューフォーム
- ノルレボ®錠1.5mg製品概要書
- ノルレボ®錠1.5mg患者向医薬品ガイド
- あすか製薬株式会社 患者用パンフレット各種
- くすりのしおり
- 日本産婦人科学会編 緊急避妊法の適正使用に関する指針（平成28年度改訂版）
- 北村邦夫, 第8回男女の生活と意識に関する調査報告書（日本家族計画協会, 2017）
- PHARMACIST'S LETTER / PRESCRIBER'S LETTER
November 2016～Resource #321110
Emergency Contraception: FAQs (Therapeutic Research Center, USA)
- Robert A. Hatcher, Contraceptive Technology 21st ed., Sep.1, 2018

緊急避妊薬の 慣用的な 呼び名

アフターピル

モーニングアフターピル

EC

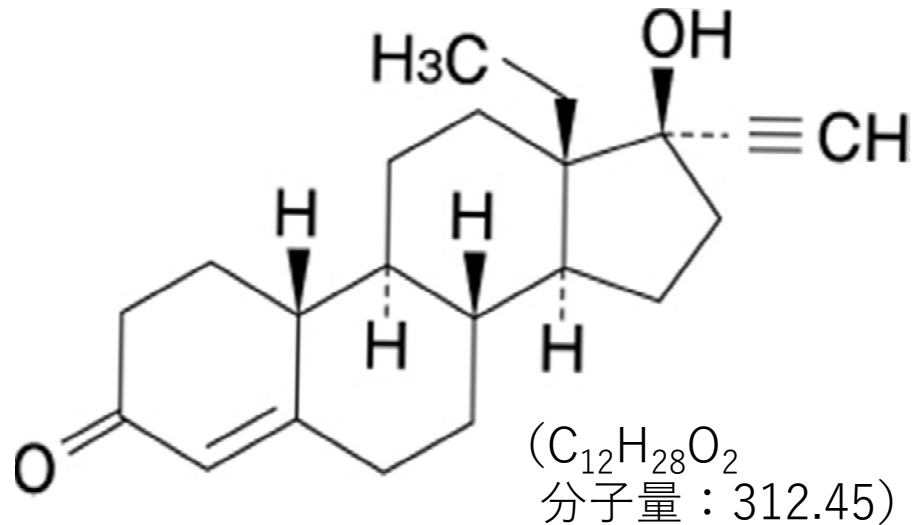
エマージェンシーピル

ノルレボ

プランB (Plan B One-Step,
Option 2, Take Action)

緊急避妊薬の有効成分と製剤

合成黄体ホルモン（ノルゲストレル）の左旋性（levo体）光学異性体
レボノルゲストレル Levonorgestrel (LNG)



0.75mg錠 フランス/USA(1999),EU(2000),
日本(2011)
1.5mg錠 EU(2003),フランス(2004),USA(2006),
日本(2016)
1.5mg「F」錠 日本(2019)

【効能・効果】 緊急避妊

【用法・用量】

性交後 72 時間以内に
1.5mgを 1 回経口投与

【製剤】 白色素錠

10分以内に崩壊し、
急速に吸収される

緊急避妊薬の薬理作用

【排卵抑制作用】

+ 受精阻害作用，受精卵着床阻害作用も関与する可能性も考えられる

＜考えられる作用機序＞

LNGは合成黄体ホルモンであるノルゲステレルの光学異性体である

LNGが吸収されて急激に血中濃度が高まると体内のホルモンバランスが変化する



体が妊娠した状態にあると勘違いして、脳下垂体からのホルモンを分泌しなくなる



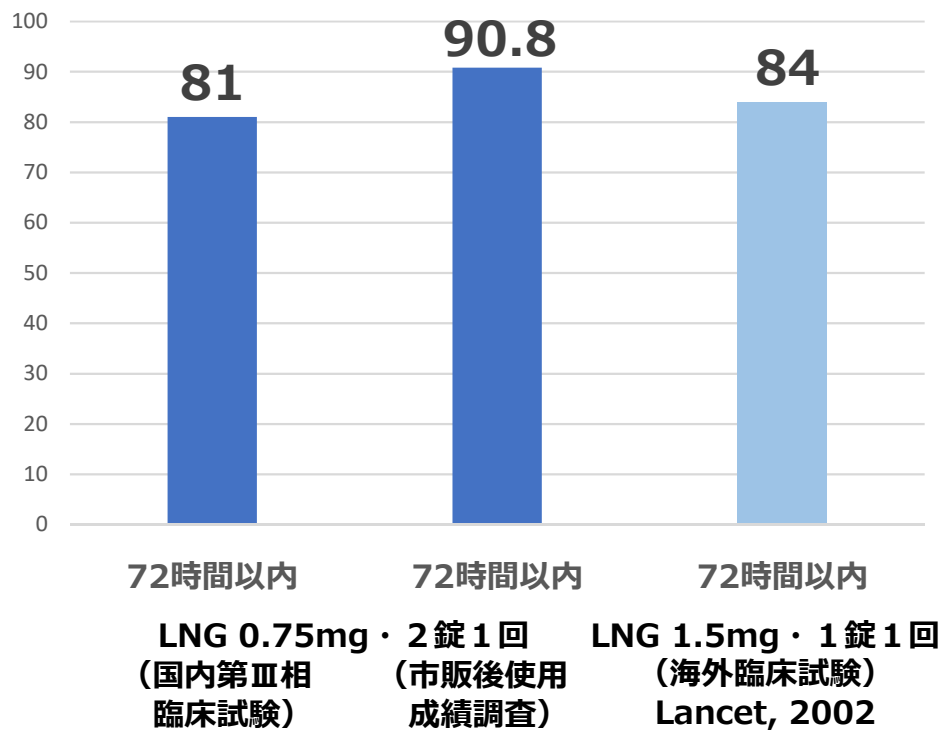
LHサージの消失や遅延により、卵巣からの排卵が抑制される（作用は5～7日間続く）

LNG服用により妊娠しなかった場合には、服用後3～7日以内（人によっては2週間後）に出血（月経）がおこる

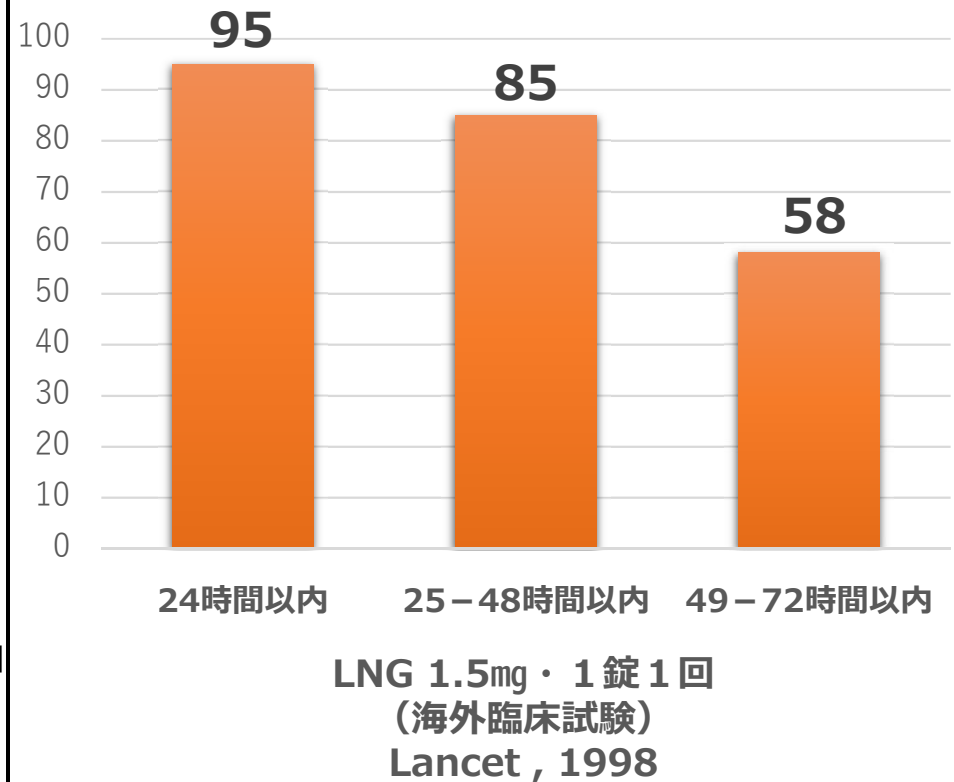
緊急避妊薬の臨床効果

$$\text{妊娠阻止率} = \frac{\text{妊娠予定数} - \text{実際の妊娠例数}}{\text{妊娠予定数}} \times 100 (\%)$$

妊娠阻止率 (%)



性交からECまでの時間による妊娠阻止率 (%)



薬剤師*の面前で服用させる理由

- ① 性交後できるかぎり速やかに服用
(性交後72時間以内の投与)

服用までの時間が速いほど臨床効果は高い

- ② 患者本人の確実な服用を確認

- ③ 緊急避妊薬の不正な入手の防止

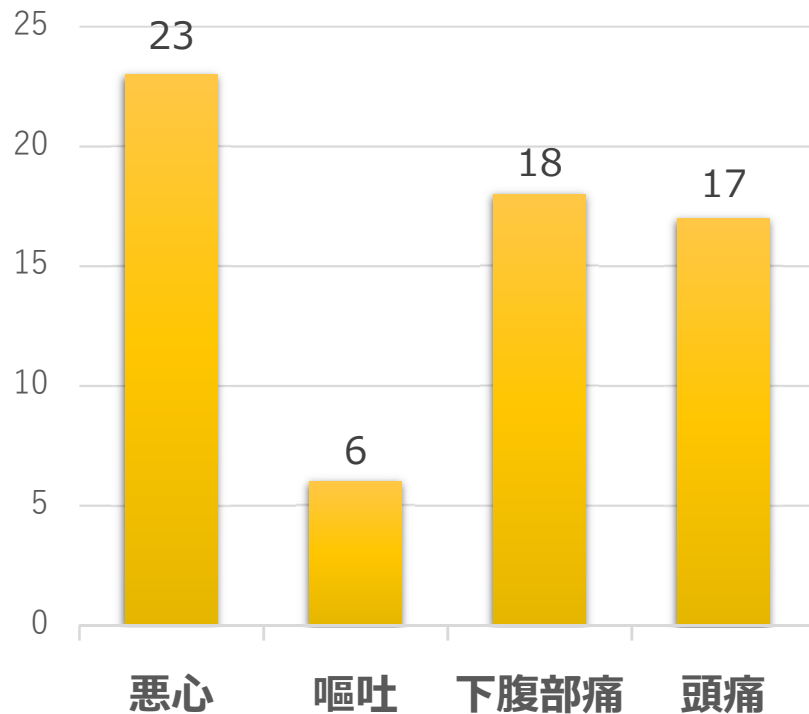
(*研修修了者)

緊急避妊薬の副作用

副作用発現率 (%)

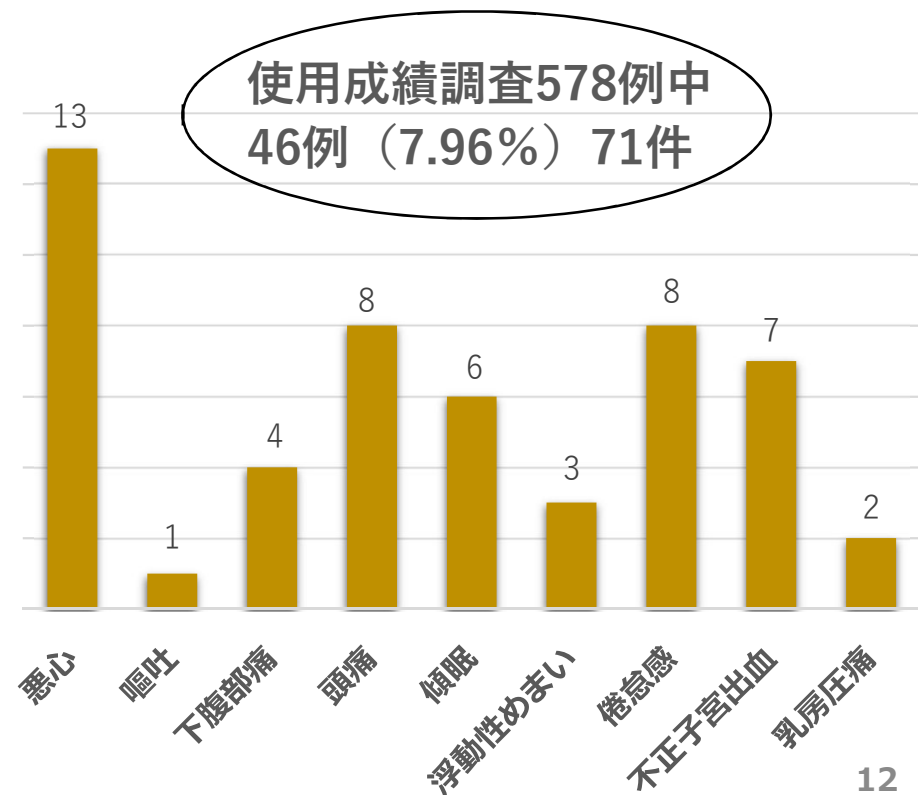
LNG 1.5mg 1錠1回

(WHOが行った試験; Lancet, 1998)



国内再審査終了時の副作用発現件数 (件)

LNG 0.75mg 2錠1回 (2016)



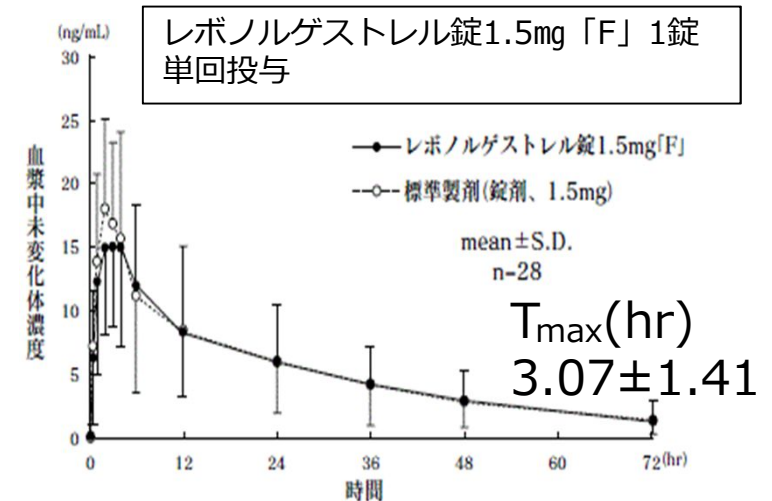
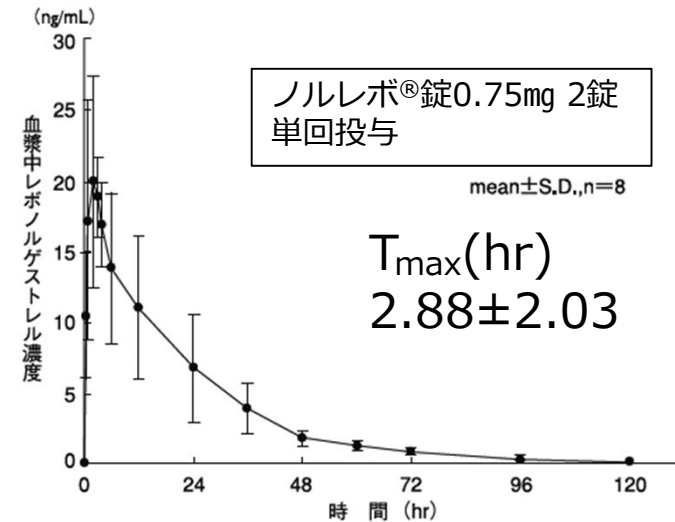
服用後に嘔吐した場合は どうすればよいか？

• 服用後 2 時間以内に嘔吐 した場合

(血中LNG濃度がピークに達する前に
薬剤が吐物といっしょに吐き出されて
しまった可能性が高い)

「追加服用の必要がある
かもしれないので、すぐ
に処方してもらった医師
に相談してください」

• 服用後 2 時間を経過して から嘔吐した場合 「心配ありません」



緊急避妊薬の禁忌

1. 本剤の成分（黄体ホルモン）に対し過敏症の既往歴のある女性

2. 重篤な肝障害のある患者

代謝能が低下しており、肝臓への負担が増加するため、症状が増悪することがある

3. 妊婦

成立した妊娠には効果がなく、妊娠している女性には有益性がない

妊娠初期・中期に投与した場合には、女性胎児の外性器の男性化又は男性胎児の女性化が起こることがある

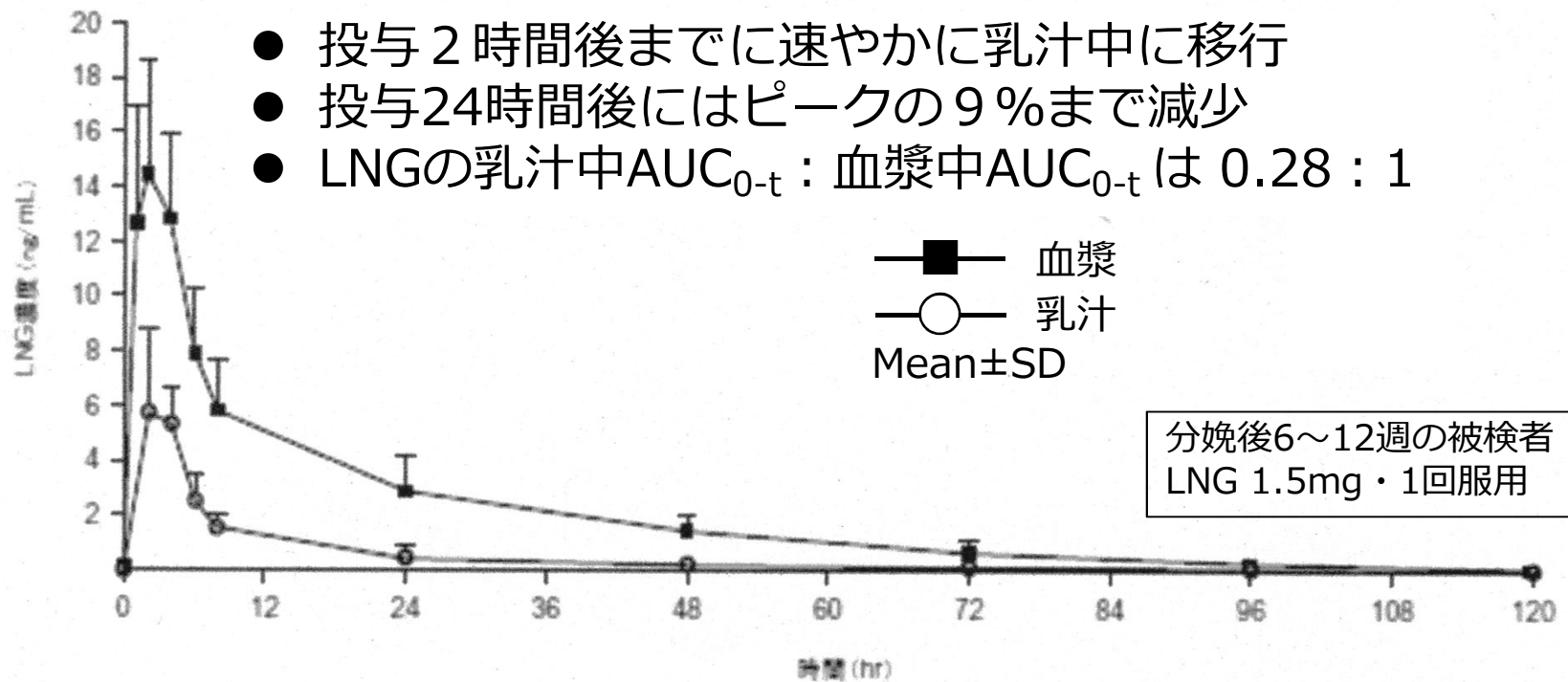
現在、服用している薬や食品がある場合

併用注意

薬剤名	機序	臨床症状・措置方法
抗けいれん薬（フェノバルビタール・フェニトイン・プリミドン・カルバマゼピン） HIV プロテアーゼ阻害剤（リトナビル） 非ヌクレオシド系逆転写酵素阻害剤（エファビレンツ） リファブチン リファンピシン	これらの薬剤が肝の薬物代謝酵素（CYP3A4）を誘導し、 <u>本剤の代謝を促進</u> する	本剤の <u>効果が減弱</u> するおそれがある
セイヨウオトギリソウ（セント・ジョーンズ・ワート）含有食品 <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; display: inline-block;"><サプリメントやハーブ></div>	セイヨウオトギリソウが肝の薬物代謝酵素を誘導し、 <u>本剤の代謝を促進</u> する	本剤の <u>効果が減弱</u> するおそれがあるので、本剤投与時は <u>セイヨウオトギリソウ含有食品を摂取しない</u> よう注意する

授乳婦への注意

LNGは乳汁中に移行するため、
服用後24時間は授乳を避け、その間の
母乳は廃棄する



血漿中及び乳汁中レボノルゲストレルの推移 (n=12)

「約3週間後の産婦人科受診」を 指導する理由

- 緊急避妊薬による妊娠阻止率は**100%ではない**
- 緊急避妊薬の服用により、妊娠を阻止できたかどうかはすぐにはわからない
- 緊急避妊薬の服用後に出血があっても、**消退出血**なのか**月経**なのか、**不正性器出血**や**妊娠初期の出血**なのかを患者が区別するのは難しい
- 妊娠反応（尿検査）は、排卵から14日目以降でないと陽性にならない
- 性感染症の有無を確認し、必要な治療等を受けなければならない場合がある（性犯罪や性暴力被害者など）

薬局での患者対応③

患者への「性に関する情報提供」

1. 緊急避妊薬の服用後も妊娠する可能性がある
2. 妊娠する可能性がある「誤った避妊法」を知ってもらう
3. より確実な避妊法を知ってもらう
4. 自分に合った避妊法を検討し、必要に応じて医師・薬剤師に相談してもらう

よく知られている避妊法

- **コンドームを使用する**

精子が子宮内に侵入するのを防ぐ

- **低用量経口避妊薬（低用量ピル）を服用する**

卵胞ホルモンと黄体ホルモンの低用量配合剤の服用により、排卵抑制、子宮内膜の変化、子宮頸管粘液を変化させて受精や精子侵入をしにくくさせる

- **子宮内避妊具／子宮内避妊システムを装着する**

子宮内に銅イオンや黄体ホルモン剤を持続的に放出する器具を挿入して受精卵の着床を妨げる方法

- **リズム法（オギノ式／基礎体温法）**

妊娠しやすい時期を予想して、その時期の性交を避ける

※いわゆる「安全日」はなく、
避妊法ではない

- **性交中絶法（膣外射精）**

性交を途中でやめて膣外で射精する

※射精前からの漏れ出し等が
あり、避妊法ではない

選択されている避妊法の実態

日本

日本家族計画協会（2016年調査結果）
調査対象；満16歳～49歳の男女3000人

- 男性コンドーム 82.0%
- 性交中絶法 (膣外射精) 19.5%
※射精前からの漏れ出し等があり、
避妊法ではない
- リズム法 (オギノ式) 7.3%
※いわゆる「安全日」はなく、
避妊法ではない
- 低用量ピル 4.2%
- 子宮内避妊具 (IUD) 0.4%

アメリカ

Guttmacher Institute, Fact sheet
July 2018 (2014年調査結果) 15～44歳

- 低用量ピル 25.3%
- 卵管結紮術 21.8%
- 男性コンドーム 14.6%
- 子宮内避妊具(IUD) 11.8%
- 精管結紮手術 6.5%

より確実な避妊法

避妊法		失敗率 (%)※	特徴（長所・短所など）	
男性不妊手術 (精管結索術;パイプ カット)		0.15	一度のみ 日帰り手術	不可逆的 精子生産機能の 低下 ~200,000円
女性不妊手術 (卵管結索術)		0.5	一度のみ 自然分娩や帝王切 開時に行える	不可逆的 入院手術 ~200,000円
IUS (黄体ホルモン放出)		0.2	1回の装着で2~5 年効果持続	産婦人科で子宮 内装着/除去 1回~50,000円 出産経験者向け
銅付加IUD ; Cu-IUD (銅イオン放出)		0.8		
低用量ピル ; OC		7	簡単 ~5,000円/月 女性自身で行える	飲み忘れあり 禁忌あり (処方箋が必要)
男性コンドーム		13	~1,000円/ダース 薬局・コンビニで 買える 性感染症の予防	破損,脱落,漏れ, 装着ミス 男性主体

(出典 : Robert A. Hatcher, Contraceptive Technology 21st ed., Sep.1, 2018)
 ※100人の女性において、一般的な方法で使用した時に1年間で妊娠してしまった数

薬局での患者対応④

オンライン診療における医師と薬剤師*の連携

<よりよい連携を図るためのキーポイント>

1. 患者の心理状態や社会状況を十分に考慮すること
2. 医師から提供された患者の診療関連情報に不明点があれば、
疑義照会等により医師とコミュニケーションを図ること
3. 緊急避妊薬の調剤、服用確認、服薬指導、避妊法の情報提供、
3週間後の産婦人科受診の伝達に責任を持つこと
4. 緊急避妊薬に関連する最新情報の収集と質の高い患者対応を
心がけること

(*研修修了者)

避妊に 関係する略語

- **LNG** : レボノルゲストレル
- **EC** : Emergency Contraceptive (緊急避妊法)
- **ECP** : Emergency Contraceptive Pills (緊急避妊薬)
- **UPSI** : Unprotected Sexual Intercourse (避妊せずに行われた性交または避妊手段が適切かつ十分でなかった性交)
- **OC** : Oral Contraceptives (低用量ピル)
- **LEP** : Low dose Estrogen Progestin (経口避妊薬・月経困難症治療薬)
- **IUD/IUS** : Intrauterine Device / Intrauterine System (子宮内避妊具 / 子宮内避妊システム)
- **STI** : Sexually Transmitted Infections (性感染症)
- **パイプカット** : 精管結紮術
- **アウス** : 人工妊娠中絶 Auskratzung(独)に由来
- **搔把(そうは)** : 人工妊娠中絶のために子宮内胎児を体外に搔き出す(かきだす)手術

信頼を基盤とする関わりのために

1. 薬剤師の態度

- ・患者に対して“ヒエラルキー（上下関係）の考え方”をもたない
- ・薬剤師の主観を入れない
- ・【今、知っている情報を伝え、相談に応じる】という気持ちで接する

2. 薬剤師の知識

- ・エビデンスがある／公開された／最新の臨床薬学知識を身につける

3. 薬剤師のコミュニケーションスキル

- ・不安／不明な事項は明確にしてから対応する
- ・相手が話しやすくなるように、双方向会話に努める
- ・専門的な会話に努める

研修への積極的な参加



関連情報の正しい理解



研修修了薬剤師として
適切な患者対応と医療連携



「オンライン診療に伴う緊急避妊薬の調剤」において
薬剤師に期待されている社会的役割を担う